

# 水難事故のあらまし

～平成27年中の水難事故と救助活動状況～



岐 阜 県 警 察 本 部

## 目 次

第 1	水難事故の発生状況	
1	概況	1
2	過去 10 年間の発生状況	2
3	月別発生状況	3
4	場所別発生状況	4
5	態様別発生状況	5
6	曜日別発生状況	6
7	原因別発生状況	6
8	年齢別発生状況	7
9	子ども（中学生以下）の水難事故発生状況	8
10	高齢者（65 歳以上）の水難事故発生状況	9
11	居住地別事故者数	10
第 2	水難救助活動の状況	
1	出動状況	10
2	救助事例	11
3	水難救助訓練実施状況	11
4	小型船舶操縦士の養成	12
第 3	その他	
1	水上バイク等の事故防止対策	12
2	水難事故防止広報活動	13

### 表 紙 写 真

飛驒市宮川における警察・消防合同による水難救助訓練  
(平成 27 年 7 月撮影)

# 第1 水難事故の発生状況

## 1 概況

[平成27年中の岐阜県内における水難事故の発生状況]

発生32件（前年比－1件）、事故者34人（前年比－9人）

[事故者の内訳]

- 死亡 17人（前年比－1人）
- 行方不明 1人（前年比＋1人）
- 負傷 5人（前年比－1人）
- 無事救助 11人（前年比－8人）

[主な特徴]

- 前年に比べ発生件数、事故者数ともに減少（事故者数は過去10年間で最も低い数値）
- 全体の約88%（28件）が河川で発生、うち約29%（8件）が長良川で発生
- 魚釣り中の事故が最多（13件、前年比＋5件）
- 前年最も多かった15～19歳の事故が減少（3人、前年比－8人）
- 高齢者（65歳以上）の事故が増加（11人、前年比＋2人）

[水難事故の発生状況(前年比)]

区分 年別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
平成27年	32	34	17	1	3	2	11
平成26年	33	43	18	0	0	6	19
増減	－1	－9	－1	1	3	－4	－8



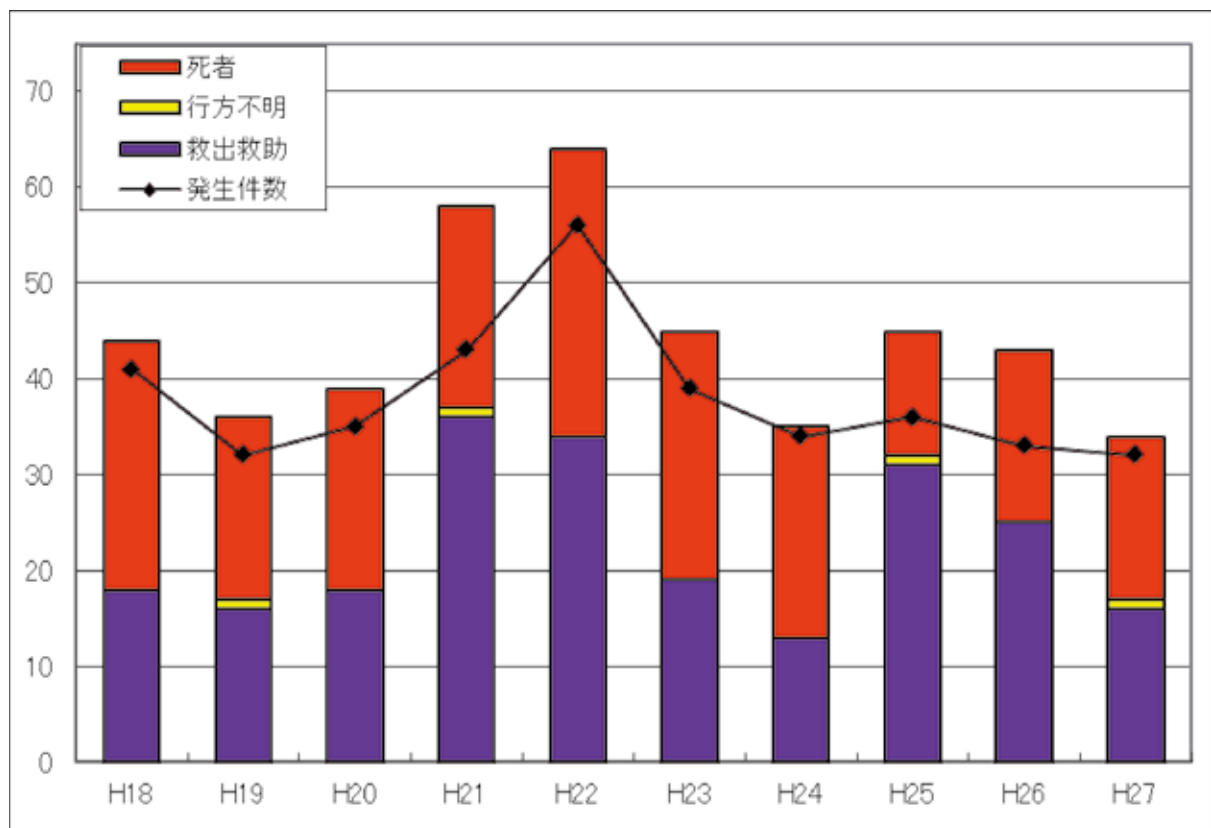
舟艇を活用した救助訓練

## 2 過去10年間の発生状況

- 前年に比べ、発生件数、事故者数ともに減少した。事故者数は過去10年間で最も低い数値となった。

[過去10年間の発生状況]

区 分 年 別	発生件数 (件)	事 故 者 数 (人)			
		死亡	行方不明	救出救助	
平成18年	41	44	26		18
平成19年	32	36	19	1	16
平成20年	35	39	21		18
平成21年	43	58	21	1	36
平成22年	56	64	30		34
平成23年	39	45	26		19
平成24年	34	35	22		13
平成25年	36	45	13	1	31
平成26年	33	43	18		25
平成27年	32	34	17	1	16



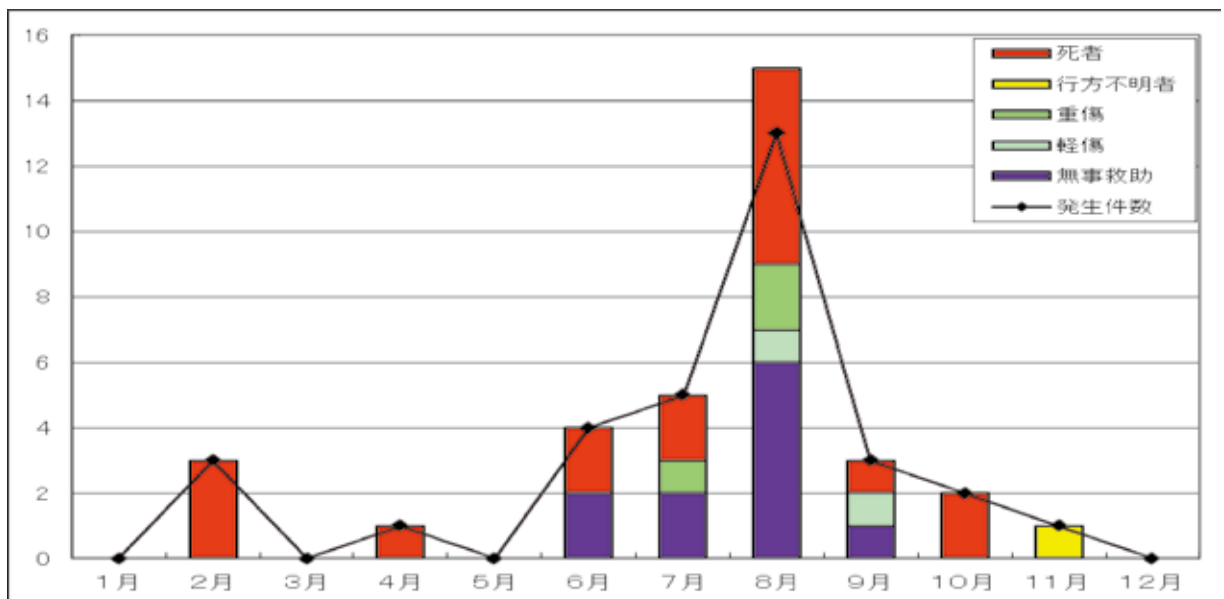
### 3 月別発生状況

○ 7月～8月の夏期シーズンの発生が、18件（前年比+2件）で全体の約56%を占めている。

事故者数は20人（前年比+3人）で、内訳は、死亡8人（前年比±0人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助12人（前年比+3人）であった。

[月別発生状況]

区分 月別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
1月							
2月	3	3	3				
3月							
4月	1	1	1				
5月							
6月	4	4	2				2
7月	5	5	2		1		2
8月	13	15	6		2	1	6
9月	3	3	1			1	1
10月	2	2	2				
11月	1	1		1			
12月							
合計	32	34	17	1	3	2	11



## 4 場所別発生状況

○ 河川での事故が最も多く、28件（前年比－1件）発生し、全体の約88%を占めている。

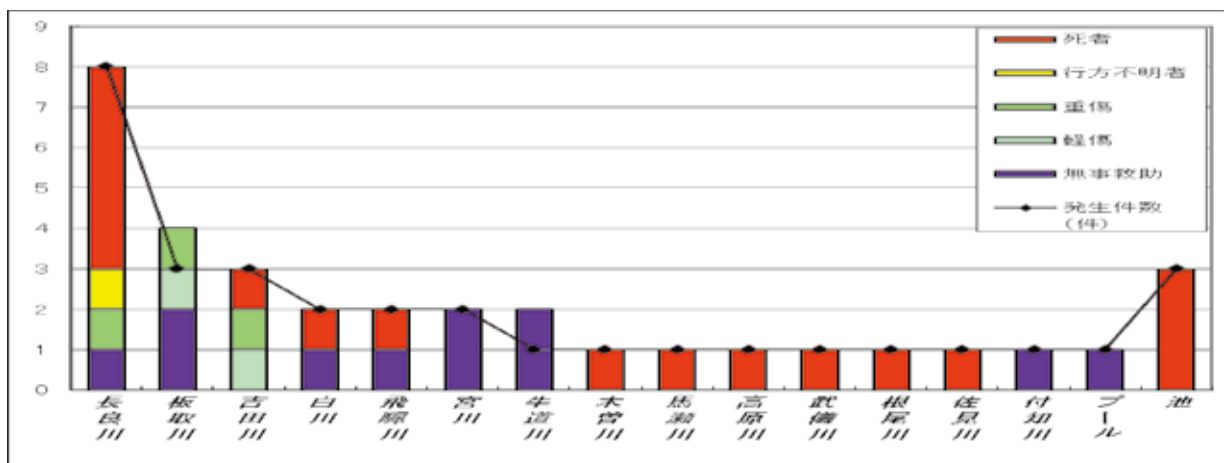
事故者数は30人（前年比－9人）で、内訳は、死亡14人（前年比－2人）、行方不明1人（前年比＋1人）、救出救助15人（前年比－8人）であった。

○ 河川別では、長良川での発生が最も多く、8件（前年比－4件）発生し、河川全体の約29%を占めている。

事故者数は8人（前年比－9人）で、内訳は、死亡5人（前年比＋2人）、行方不明1人（前年比＋1人）、救出救助2人（前年比－12人）であった。

[場所別発生状況]

区分 場所別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
			死亡	行方不明	救出救助		
					重傷	軽傷	無事救助
河川	28	30	14	1	3	2	10
長良川	8	8	5	1	1		1
板取川	3	4			1	1	2
吉田川	3	3	1		1	1	
白川	2	2	1				1
飛騨川	2	2	1				1
宮川	2	2					2
牛道川	1	2					2
木曾川	1	1	1				
馬瀬川	1	1	1				
高原川	1	1	1				
武儀川	1	1	1				
根尾川	1	1	1				
佐見川	1	1	1				
付知川	1	1					1
プール	1	1					1
池	3	3	3				
合計	32	34	17	1	3	2	11



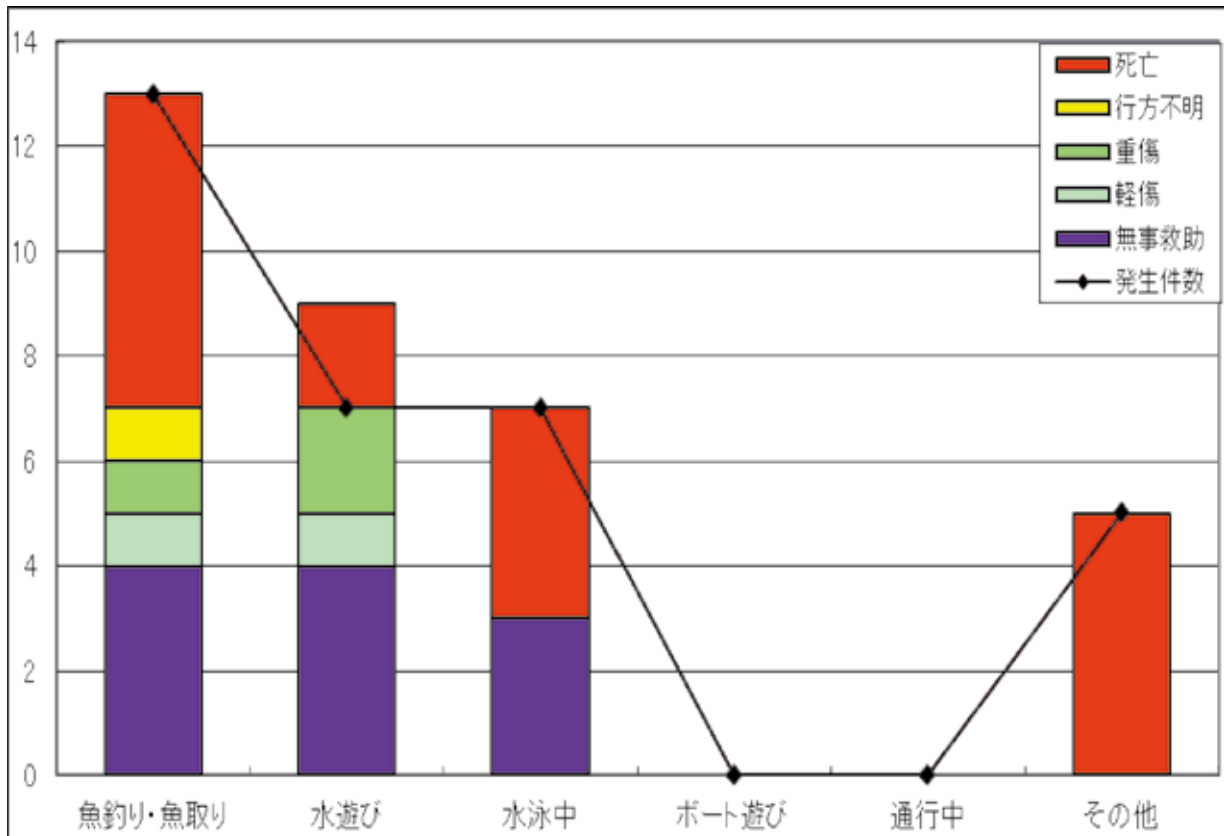
## 5 態様別発生状況

- 魚釣り・魚取り中の事故が最も多く、13件（前年比+5件）発生し、全体の約41%を占めている。

事故者数は13人（前年比+5人）で、内訳は、死亡6人（前年比+1人）、行方不明1人（前年比+1人）、救出救助6人（前年比+3人）であった。

[態様別発生状況]

区分 態様別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
魚釣り・魚取り	13	13	6	1	1	1	4
水遊び	7	9	2		2	1	4
水泳中	7	7	4				3
ボート遊び							
通行中							
その他	5	5	5				
合計	32	34	17	1	3	2	11





## 6 曜日別発生状況

- 日曜日の発生が8件（前年比±0件）と最も多く、全体の25%を占めている。

また、週末（金曜日、土曜日、日曜日）の発生が合計16件（前年比+2件）で、全体の半数を占めている。

[曜日別発生状況]



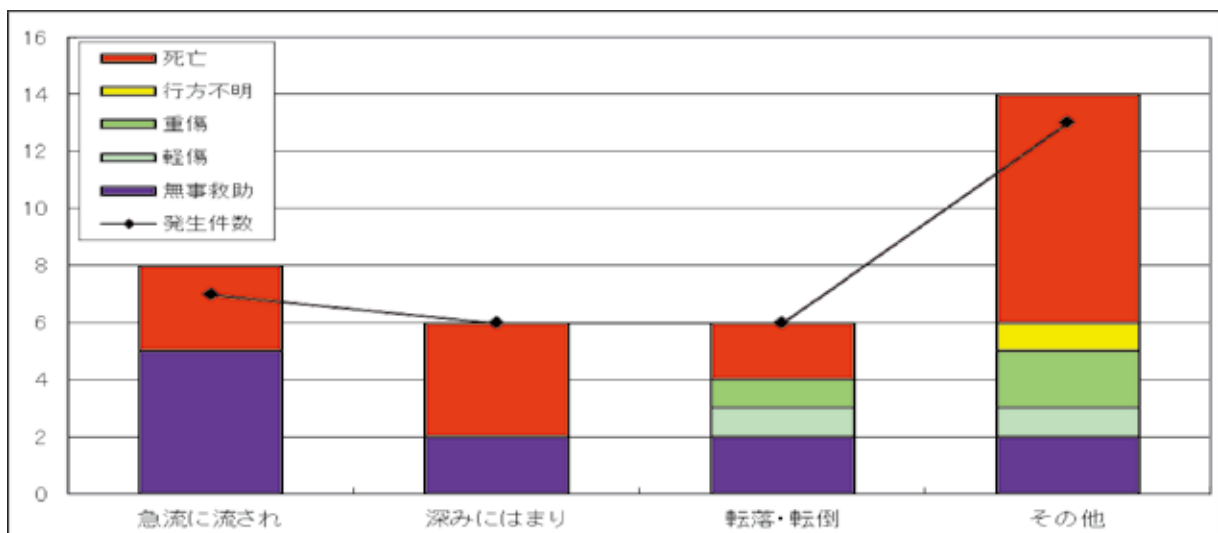
## 7 原因別発生状況

- 急流に流される事故の発生が、7件（前年比-2件）8人（前年比-6人）と最も多い。

事故者数の内訳は、死亡3人（前年比-2人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助5人（前年比-4人）であった。

[原因別発生状況]

区分 原因別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
急流に流され	7	8	3				5
深みにはまり	6	6	4				2
転落・転倒	6	6	2		1	1	2
その他	13	14	8	1	2	1	2
合計	32	34	17	1	3	2	11





## 8 年齢別発生状況

- 65歳以上（高齢者）の事故が11人（前年比+2人）と最も多く、全体の約32%を占めている。

事故者数の内訳は、死亡7人（前年比+1人）、行方不明1人（前年比+1人）、救出救助3人（前年比±0人）であった。

次いで、20～29歳の事故が7人（前年比+3人）と多く、全体の約21%を占めている。

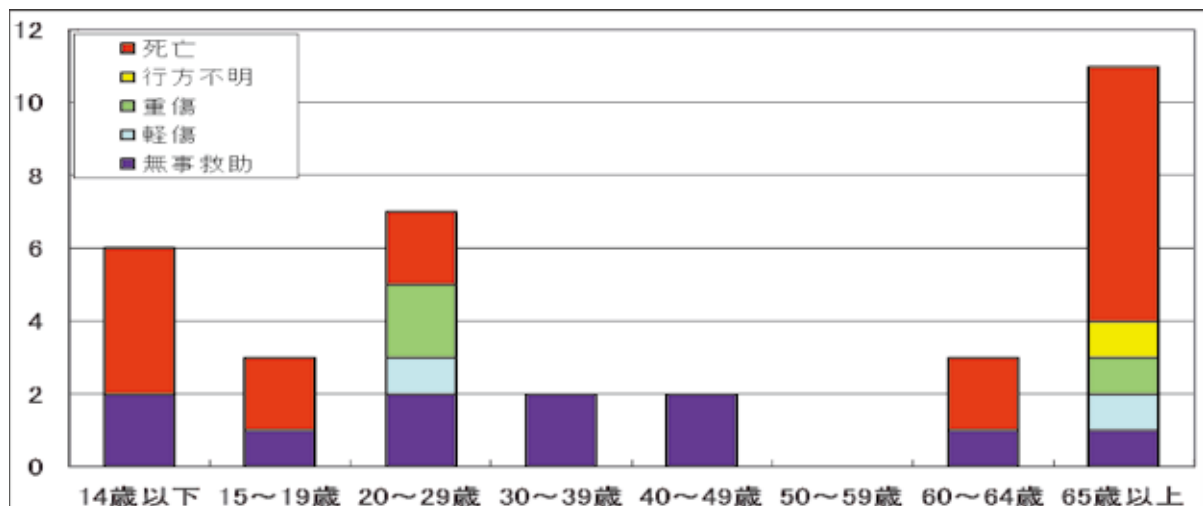
事故者数の内訳は、死亡2人（前年比±0人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助5人（前年比+3人）であった。

- 前年最も多かった15～19歳の事故が3人（前年比-8人）と減少した。

事故者数の内訳は、死亡2人（前年比-1人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助1人（前年比-7人）であった。

[年齢別発生状況]

区 分 年 齢 別	事 故 者 数 (人)				
	死亡	行方不明	救出救助		
			重傷	軽傷	無事救助
14歳以下	6	4			2
15～19歳	3	2			1
20～29歳	7	2	2	1	2
30～39歳	2				2
40～49歳	2				2
50～59歳					
60～64歳	3	2			1
65歳以上	11	7	1	1	1
合 計	34	17	1	3	11



## 9 子ども（中学生以下）の水難事故発生状況

- 子ども（中学生以下）の事故の発生が、6件（前年比－1件）6人（前年比－4人）で、発生件数、事故者数ともに減少した。

事故者数の内訳は、死亡4人（前年比±0人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助2人（前年比－4人）であり、死亡は過去10年間で最も高い数値となった前年の数値と同様であった。

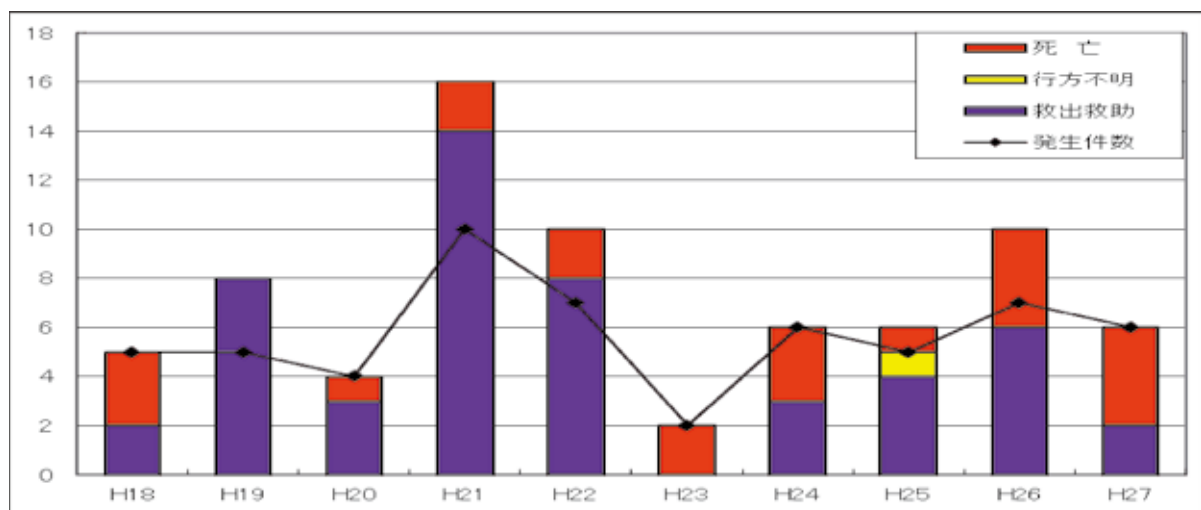
[子ども（中学生以下）の態様別水難事故発生状況]

態様別	区分	発生件数 (件)	事故者数(人)		
			死亡	行方不明	救出救助
水遊び中		2	2	1	1
水泳中		2	2	1	1
その他		2	2		
合計		6	6	4	2

(注)その他は陸上での遊戯中の落水等

[過去10年間における子供（中学生以下）の水難事故発生状況]

年別	区分	発生件数 (件)	事故者数(人)		
			死亡	行方不明	救出救助
平成18年		5	5	3	2
平成19年		5	8		8
平成20年		4	4	1	3
平成21年		10	16	2	14
平成22年		7	10	2	8
平成23年		2	2	2	
平成24年		6	6	3	3
平成25年		5	6	1	4
平成26年		7	10	4	6
平成27年		6	6	4	2



## 10 高齢者（65歳以上）の水難事故発生状況

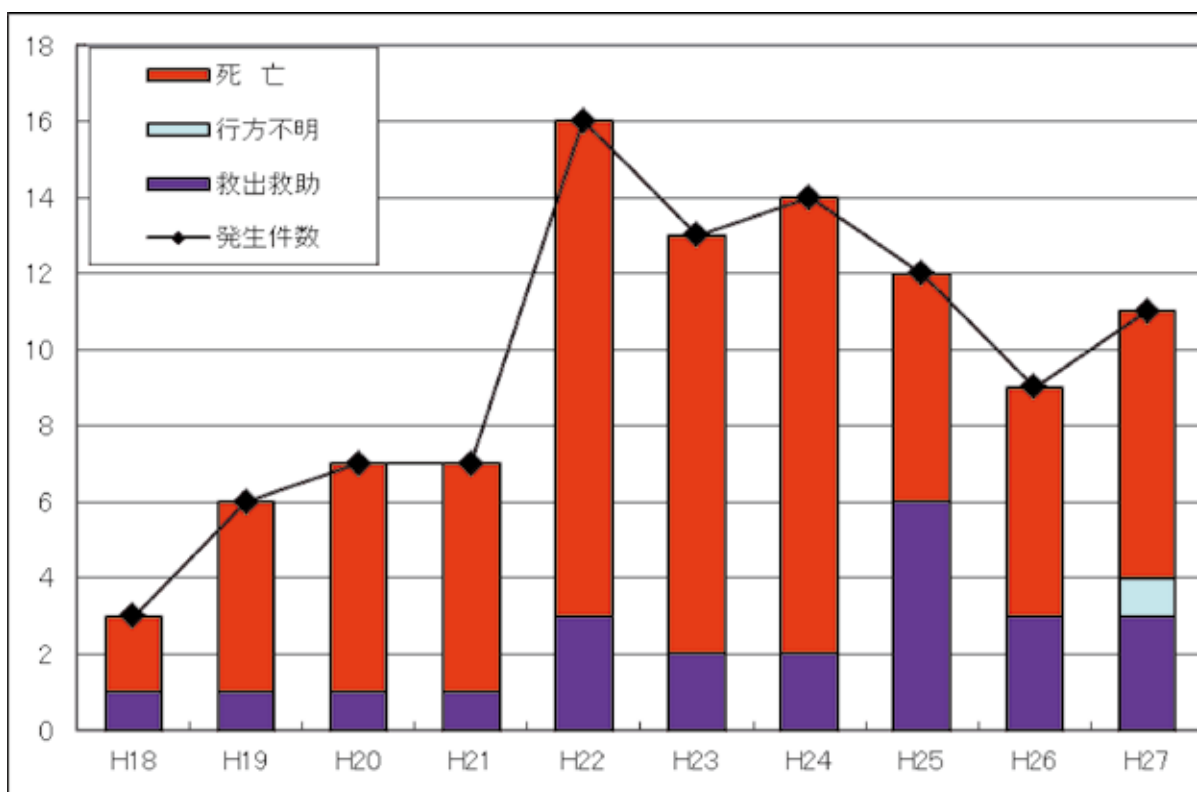
○ 高齢者（65歳以上）の事故の発生が、11件（前年比+2件）11人（前年比+2人）で、発生件数、事故者数ともに増加した。

事故者数の内訳は、死亡7人（前年比+1人）、行方不明1人（前年比+1人）、救出救助3人（前年比±0人）であった。

○ 事故態様については、11件中、9件が魚釣り・魚取り中の事故であった。

[過去10年間における高齢者（65歳以上）の水難事故発生状況]

区 分 年 別	発生件数 (件)	事 故 者 数 (人)			
		死 亡	行方不明	救出救助	
平成18年	3	3	2	1	
平成19年	6	6	5	1	
平成20年	7	7	6	1	
平成21年	7	7	6	1	
平成22年	16	16	13	3	
平成23年	13	13	11	2	
平成24年	14	14	12	2	
平成25年	12	12	6	6	
平成26年	9	9	6	3	
平成27年	11	11	7	1	3



## 11 居住地別事故者数

- 事故者を居住地別にみると、県内居住者が20人（前年比±0人）と最も多く、次いで愛知県居住者が10人（前年比-10人）であった。

なお、事故者のうち、東海三県（岐阜県、愛知県、三重県）の居住者は32人で、全体の約94%を占めている。

[居住地別事故者数]

区 分	事 故 者 数 (人)					
	県 別	死者	行方不明	救出救助		
				重傷	軽傷	無事救助
静 岡 県	1					1
富 山 県	1					1
岐 阜 県	20	8	1	1	1	9
愛 知 県	10	7		2	1	
三 重 県	2	2				
合 計	34	17	1	3	2	11

## 第2 水難救助活動の状況

### 1 出動状況

- 水難救助活動に、警察官が延べ414人、消防署（団）員が延べ360人出動した。
- 県警及び県防災のヘリコプターが、4件の事故に対し延べ8回、警察・消防等の舟艇が、5件の事故に対し延べ16回出動した。

区 分	発生件数 (件)	出動状況 (人)		ヘリ出動		舟艇出動	
		警察官	消 防	件数	回数	件数	回数
平成27年	32	414	360	4	8	5	16
平成26年	33	646	645	9	19	6	29
増 減	-1	-232	-285	-5	-11	-1	-13

## 2 救助事例

日 時	場 所	状 況
6月20日(土)	白川町 白川	鮎釣りに訪れていた事故者(男性1人)が、転倒して急流に流された際、付近でバーベキュー・鮎釣りをしていた男性6人が事故に気付き、連携して川岸に引き上げ救助した。
8月 5日(水)	岐阜市 長良川	川の対岸に泳いで横断中、急流に流されて溺れ、助けを求める事故者(男性1人)に、同僚と遊びに来ていた男性が気付き、川岸に引き上げ救助した。

## 3 水難救助訓練実施状況

- 県内には、長良川、木曾川、揖斐川の三大河川をはじめ、ため池や農業用水などが数多く点在している。

各警察署では、水難事故に対して迅速かつ的確な救助活動を行うため、警察署独自又は消防機関や県防災航空隊、警察航空隊と合同で水難救助訓練を実施した。



警察航空隊との合同訓練



救急法訓練

## 4 小型船舶操縦士の養成

- 水難事故の発生時において、舟艇を活用した水難救助活動を迅速的確に実施するため、水難救助用の小型船舶が配備されている警察署や事故者の捜索等に当たる機動隊の警察官を対象に「二級小型船舶操縦士免許講習」を受講させている。



舟艇操縦訓練

## 第3 その他

### 1 水上バイク等の事故防止対策

- レジャーの多様化、アウトドアスポーツの普及により、河川の利用環境は変化してきており、遊泳者や釣り人等の第三者を巻き込んだレジャー事故の発生を防止するため、関係機関・団体と連携し、広報啓発用看板の設置や河川のパトロールを実施するなどの活動を推進した。

なお、平成27年中、県下における水上バイク等による事故の発生はなかった。

[過去5年間における水上バイク等の事故発生状況]

区 分 年 別	発生件数 (件)	事 故 者 総 数 (人)		
		死者	負傷	救出救助
平成23年	0	0		
平成24年	1	1	1	
平成25年	3	3	3	
平成26年	3	4	4	
平成27年	0	0		



## 2 水難事故防止広報活動

- 県下の警察署では、7～8月の夏期に、関係機関と連携し、河川などの危険箇所に対する安全点検やパトロールを行い、遊泳者、水上バイク利用者、釣り人などに対する事故防止広報や安全指導を行った。

また、交番・駐在所が発行するミニ広報紙や、テレビ、ラジオなどのメディアを利用した広報啓発活動を展開した。

- 岐阜中・岐阜北警察署では、夏期期間中、長良川河畔において、NPO法人長良川環境レンジャー協会員らとともに、長良川のより安全で快適な河川利用を図るため、河川利用者（水上バイク、バーベキュー、キャンプ、水遊び、水泳など）に対し、マナー向上のための広報啓発活動を行った。



河川利用者に対する広報（長良川）

- 大垣警察署では、8月2日、大垣市東町地内の揖斐川河畔において、河川利用者（魚釣り、バーベキュー）に対し、広報チラシ（岐阜県河川課作成）などを配付して、飲酒しての遊泳の禁止を呼びかけるなど、水難事故防止の広報啓発活動を行った。



河川利用者に対する広報（揖斐川）

- 郡上警察署では、6月7日の鮎漁解禁日に併せ、郡上市八幡町及び白鳥町地内の河畔（長良川、吉田川）において、郡上土木事務所、郡上漁業協同組合、地元消防団と合同で、鮎釣り客らに対し、広報チラシなどを配付して、水難事故防止を呼びかける広報啓発活動を行った。



鮎釣り客に対する広報  
（長良川、吉田川）

- 飛騨警察署では、8月13日、飛騨市河合町地内のフィッシングランドにおいて、古川土木事務所、飛騨市役所、飛騨市消防本部と合同で、施設利用客らに対し、広報チラシなどを配付して、水難事故防止を呼びかける広報啓発活動を行った。



施設利用客に対する広報  
（フィッシングランド）



広報チラシ（岐阜県河川課作成）